

東京の産業と教育

会の目的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

東京都の産業教育と人材育成

教育庁指導部主任指導主事 牛 来 峯 聡



我が国の発展は、製造業を中心としたものづくり産業に従事する優れた技術者・技能者によって支えられてまいりました。このようなものづくりを支える人材を育てていくためには、産業界のみならず、学校教育の果たすべき役割が極めて大きいと考えております。

また、現在、産業構造の変化や雇用形態の多様化・流動化が進む中、自らの将来に対して夢を抱けない生徒や、社会の中で自分がどのようにかわっていけばよいのかを見いだせない生徒が増えている状況にあります。このような状況の中であって、生徒が将来社会で自立していくために、インターンシップなどを活用したキャリア教育の充実が求められております。

そこで、東京都は、今年度の重点事業の一つとして、「ものづくり人材の育成」を掲げています。児童・生徒は、幼い頃からものを作る機会が少ないため、ものづくりへの興味・関心が低くなっているとの指摘があります。そのため、小中学校の早い段階から、ものづくり教育を進めることが重要であります。その一環として、都立工業高等学校長会と連携を図り、1,200名の小中学生を対象とした「ものづくり教室」をこの夏季休業中に6校の工業高校を会場として実施します。この教室では、子供たちに作品完成まで十分な時間をかけて取り組んでもらい、ものづくりの面白さや達成

感を実感させます。

また、今年度の新たな重点事業として、企業と工業高校とが連携し、工業高校でもものづくりの基礎・基本を学習した生徒が、ものづくり企業において10日間、熟練者から実務を通して実技指導を受けることにより、実践的な技術・技能を備えたものづくり人材を育成する「技能習得型インターンシップ」を夏季休業中に実施します。

さらに、現在、「ものづくり教育推進検討委員会（平成19年8月）」の報告書に基づき、産業界が求める人材の育成に向けて、ものづくり教育に係る教員の指導力を高めるための研修プログラムの開発、工業高校の生徒の実践的な技能を高めたり、高度な技能を身に付けるための教育プログラムの開発に向けて検討をしています。具体的には、工業科教員の専門性を高める研修プログラム、小学校の理科・図画工作、及び中学校の理科・技術の教員を対象とした研修プログラム、工業高校において特定分野の技能・技術を集中的に学ぶ教育プログラム、高大連携接続教育プログラムについての開発であります。

このように、東京都は、関係方面と連携を深め、工業高校をはじめとした専門高校が中心となって、ものづくり人材育成という国家的課題に対して取り組んでまいります。

平成20年度 総会報告

平成20年度総会及び講演会が6月10日（火）午後1時30分より、都立工芸高等学校・視聴覚室において開催されました。来賓として（財）産業教育振興中央会専務理事の中山淑廣様、東京都公立高等学校長協会会長の齊藤光一様（都立晴海総合高等学校長）、東京都中学校長会副会長の宇佐見博子様（江戸川区立小松川第一中学校長）をお迎えしました。

開会にあたり、西澤会長から次のような挨拶がありました。「今日の社会情勢を見ますと、色々な面で厳しくなっています。例えば、昨年の倒産件数を一昨年と比べると18%増で、金額的には5%増となっています。このような企業倒産という社会現象の裏には、必ず教育の問題が潜まれています。教育というのは、どういう環境のもとでもしっかりとやっていく必要があります、特に産業教育は、社会情勢の変化に合わせて色々な工夫をしていかなければなりません。今日、日本の産業力が世界の先端をいくようになってきた中で、人心の荒廃等も踏まえ、いかに日本の産業力を発展させていくかについて、より次元の高い、かつ難しい局面を迎えています。今年度も、このことを十分に認識し、諸事業の推進に取り組んで参りたいと思います。」

引き続き、常任理事の新井清博都立学校教育部長からは、次のような挨拶がありました。「これまで高校改革において、産業教育の分野では新しいタイプの高校やデュアルシステムの推進、産業高校等の設置などを進めてきました。また、これからのものづくり人材育成面から都立産業技術高等専門学校の法人化など、色々な施策を進めております。こうした中、昨年の8月には、ものづくり教育推進検討委員会から最終報告が出されました。それに基づき、今年度から技能習得型のインターンシップや工業高校からの高専への編入、さらにデュアルシステムや高専の拡大などについて、予算計上の段階に入っております。」

このように、東京都全体を通して、ものづくり教育の内容の検討を含め、より一層の推進に努めて参ります。」



5月22日の理事会において選任された平成20年度の会長、副会長の選任結果と理事長、常任理事、常任監事について、以下のような報告がありました。

- 会 長 西澤 宏繁
（株）東京都民銀行代表取締役会長
- 副 会 長 久保村昭衛
TDO グラフィックス(株) CEO
- 同 金子 昌男
（株）カナック企画相談役
- 同 森田 聖一
東京都立荒川商業高等学校長
- 理 事 長 中村 正彦
東京都教育委員会教育長
- 常任理事 新井 清博
都教育庁都立学校教育部長
- 同 加藤 裕之
都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長
- 常任監事 鈴木 信孝
都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長

次に、以下の議案が提案され、審議の結果、各議案とも原案とおりに承認されました。

- 第1号議案 会則の改正（案）
- 第2号議案① 平成19年度事業報告（案）
- 第2号議案② 平成19年度決算書（案）
- 第2号議案③ 平成19年度監査報告
- 第3号議案 平成20年度役員選任（案）
- 第4号議案① 平成20年度事業計画（案）
- 第4号議案② 平成20年度予算（案）

引き続き、産業界会員功労者（永年会員）の表彰が行われ、西澤会長より各社の代表に感謝状と記念品が手渡されました。

新たな専門学科「家庭科」

としての取り組み

東京都立忍岡高等学校 主幹 高橋靖子



1 はじめに

本校は平成18年4月1日、普通科と専門学科家庭科とを併設した全日制・単位制高校として開校しました。23区内で唯一の専門学科家庭科である「生活科学科」は、将来のスペシャリストとして必要な資質や能力を育てるとともに、大学進学希望の実現を目指し、教育活動を展開しています。

2 特色ある教育課程と授業内容

(1) 多彩な家庭科専門科目の設置

28種類の多彩な家庭科専門科目を設置しているため、幅広く基礎から専門まで家庭科科目を学ぶことができます。単位制なので、自分の将来の進路目標や興味・関心に応じて科目を選択し、自分独自の時間割を作り学んでいきます。専門科目は半年履修なので、基礎を積み上げながらたくさんの家庭科科目を履修選択することができます。また、普通科との共通履修選択科目も用意しているので、大学進学希望にも対応し、時間割を作ることができます。

(2) 資格取得を目指した授業内容

専門性の基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、目標をもって授業に取り組ませるため、資格取得を授業内容に取り入れています。「被服製作Ⅰ」「フードデザイン」は必修科目とし、被服製作家庭科技術検定3級、食物調理家庭科技術検定3級、「家庭情報処理」では文書デザイン検定3～1級を全員に受験させ、全員合格を目指し指導に当たっています。さらに希望者には1級取得まで目指せるよう、選択科目を用意しています。

昨年度、被服製作検定洋服1級に19名、食物調理検定1級に16名が合格しました。今年度は被服製作検定和服1級に10名が挑戦する予定です。

(3) スペシャリストを目指し専門性の高い授業内容を展開

服飾・デザイン系の科目では、将来デザイナー、パタンナーなどを目指すための専門的な知識や技術を身に付けるため、アパレルCADを使ったパターンメイキングやイラストレーターを使ったテキスタイルデザインなどの学習に

も取り組んでいます。CADの指導に当たっては、CADに精通した市民講師を招き、TTによる授業を展開しています。この他にも保育系の科目ではリトミックの講師、看護・福祉系の科目では介護福祉士や手話の講師、住居系の科目では1級建築士、調理系の科目では現場で活躍するシェフを市民講師として招き、専門性の高い授業を展開しています。

また、生徒は連携する杉野服飾大学や女子栄養大学の教授等による出前授業や、華調理師専門学校での授業を聴講するなど、将来の進路を考えるうえで、視野を広める学習にも取り組んでいます。



「華調理師専門学校での授業」

(4) 国際社会で活躍できる人材の育成

本校では学校設定科目として、「生活教養」を設置し、茶道、華道、着物の着付けや国際人としてのマナーを身に付ける学習を行います。この他にも日本舞踊やお琴など日本の伝統文化を学ぶ科目や多彩な外国語科目を自由選択科目に用意しています。

3 今後の課題

昨年度、専門学校主催の「高校生お弁当コンテスト」では最優秀賞を受賞、「全国ファッションデザインコンテスト」では佳作に入賞しました。

デザイナー、パティシエ、保育士など将来の夢をもって専門学科家庭科に入学してきた生徒たちの進路を実現させるために、今後の進路開拓にも力を入れて取り組んで参りたいと思います。

〈実践報告〉

単位制工業高校における

オートモビル工学科

東京都立六郷工科高等学校 教諭 国分輝雄



本校は、平成16年に開校した都立で唯一の単位制の工業高校です。全日制課程には、プロダクト工学科・オートモビル工学科・システム工学科・デザイン工学科があります。1年次後期より4学科から各2パターンの8履修パターンと進学系パターンの9パターンに分かれ専門教育を実践しています。

1 オートモビル工学科の概要

オートモビル工学科の履修パターンには、「自動車整備」と「自動車製作」の2パターンがあります。「自動車整備」では、国土交通省の一種自動車整備士養成施設の指定を受け、三級自動車整備士の資格取得を目指した学習を行います。一方「自動車製作」では、自動車の基礎・基本を学習した後、各種車両製作を題材として実践的な製作に係わる知識・技術を広範囲に学びます。

そのための実習場は、1200m²の床面積を持つ全国でも有数の施設で、空調・排気設備が完備されています。その他、分解組立用エンジン・整備作業用及び実験・検査用車両・エンジンランニングシステム（15台）・エンジン性能試験装置・車両性能試験装置（シャシアナライザ）・4輪アライメントテスター・車両検査ライン・板金、溶接、塗装設備・電気自動車・マイクロカー等の実習用機器・機材が設置されています。

2 教育課程と履修パターン

「自動車整備」では、整備実習（16単位）、自動車工学（9単位）、自動車整備（4単位）などが必修科目となっており、本校は単位制高校ですが、選択科目は6単位のみ履修となります。

「自動車製作」では、製作実習（8単位）、CAD製図、カーメカニズム、自動車工学などが必修科目で、最大22単位まで履修が可能です。このように、「自動車整備」は、学科及びパターン必修科目の関係からオートモビル工学科（35名定員）の生徒のみが選択でき、毎年16名～20名の生徒が在籍しています。「自動車製作」は、全

学科から選択履修が可能で、プロダクト工学科やシステム工学科の生徒も学んでいます。

3 実習展開

「自動車整備」実習では、エンジン分解・測定・組立・始動確認・調整、実車を用いたシャシ実習・主要単体実習・電子制御・自動車検査等について、2班編成（10名前後）で行います。



「実車を用いたシャシ実習」

生徒は、国家資格取得のために3年間で900時間（学科300h・実技600h）の授業を受けます。また「自動車製作」実習では、車体整備を主として、基本構造・車両の分解・ボディ整備・板金塗装・ソーラーカーや省エネカーの製作を行います。

特に、今年度は秋の省燃費競技会（全国大会）への参加を目指し、課題研究及び課外活動とタイアップして、オートモビル工学科の3年生全員が省エネカーのボディ・フレーム・電子制御エンジンの3つのテーマに分かれて実習を行っています。

4 本校生の活躍

本学科2期生が平成17年度から3年連続で、「高校生ものづくりコンテスト全国大会」の自動車整備部門に出場し、昨年度は6位に入賞しました。全国大会では、課題として学科試験の他に、エンジン・シャシ各部品の精密測定、実車を用いた点検整備、電子制御エンジンの故障診断などの自動車整備に関する高度な知識・技術が求められます。今年度は、3期生が関東地区予選及び全国大会の上位入賞に向けて連日訓練に励んでいます。

株式会社 日刊工業新聞社

資本金：1億円 代表取締役：千野 俊猛
東京都中央区日本橋小網町 14-1 TEL 03-5644-7000

＜創業＞

大正4年に「大阪古鉄日報」として創刊、大正11年に「日刊工業新聞」と改題しました。昭和17年には戦時立法の新聞統制令により「中外商業新報」（現・日本経済新聞）と合併しましたが、終戦を機に「工業新聞」の題字で復刊。昭和25年に題字を再び「日刊工業新聞」と改め、今日に至っています。

＜従業員数、取材拠点＞

509名、全国46拠点

＜事業案内＞

わが国唯一のモノづくり総合紙として、90年以上も産業振興や技術革新に貢献して参りました。専門紙としては国内最大級の編集拠点網を展開し、より現場に近い産業情報を日々提供しております。そのほかにも出版事業や展示会、教育事業、データベース、フリーペーパーの「メトロガイド」の発行などにも取り組んでいます。昨年は技能五輪国際大会の報道で、国や産業界から高く評価されました。

＜経営理念＞

モノづくり、中小企業、技術にフォーカスし、新聞、出版、イベント、電子メディアなどの各事業を総合して、顧客に満足され役立つ情報を公正、敏速に提供します。

＜青年へのメッセージ＞

モノづくりは、これからもわが国を支える基幹産業であり続けるでしょう。製造業にかかわる仕事はやりがいと将来性があります。日刊工業新聞の紙面には、元気のある企業が毎日200社も登場します。皆さんの職業選びに役立ててください。



東京スマイル農業協同組合

資本金：9億3900万円 代表理事組合長：堀之内輝雄
東京都葛飾区白鳥 4-11-17 TEL 03-5680-5550

＜創業＞

昭和23年に農協法に基づき設立された足立農業協同組合、葛飾農業協同組合、江戸川区農業協同組合が合併し、平成13年に東京スマイル農業協同組合が発足しました。愛称は「JA」です。

＜従業員数・営業拠点＞

308名。葛飾区白鳥に本部の他、足立区・葛飾区・江戸川区内に14支店、経済営農センター、葬祭センター・葛飾元気野菜直売所があります。

＜事業案内＞

金融（貯金・融資）・共済（各種保険）・農業資材・生活用品販売・宅地建物取引・葬祭・農業生産指導の各種事業を展開しています。

＜経営理念＞

「組合員とともに、農業と緑のある環境を守り、安心して笑顔のあふれる地域づくりとより良いサービスを提供し貢献します。」を理念として、農業者・

地域の事業利用者と役職員が「三位一体」で組織を構成し活動しています。

＜青年へのメッセージ＞

都市農業は、新鮮野菜や花の供給の他、緑の確保、災害時の避難地等、多面的機能を有しています。農業者をサポートし、地域の方々に生活上の利便をサービスする活動に関心を向けてください。



専修学校に学んで —在校生からのメッセージ—

愛国学園保育専門学校

幼児教育科 1年

松山 淳美

保育専門学校に通ってしばらく経ちましたが、今までこんなにも充実した気持ちになったのは初めてです。私は、昔から保育の道に進もうと思っていたわけではありませんでした。進路で迷っている時、ふと“子どもがかわいい”と思うようになっていた自分に気づき、すぐ地元の公立保育園で働きはじめました。そこで改めて保育士として働きたいと強く思い、2年という短い時間で保育士、幼稚園教諭の資格が取れる本学に通おうと決めました。

今、授業では、子どもについてよく知る為の授業の他、実践的な技術のピアノや手遊び、子ども向けの体操などを行う授業や、夏から始まる実習に向けてフェルトでの名札作成やペーパーサートの作成、紙芝居を読む練習など、職場に出てすぐ役立つ勉強をしています。赤ちゃん用の粉ミルクを試飲する授業などもあり、子どもがどのような過程で育っていくのかを自分の体で確認できます。

また、学校の隣の保育園児たちとの遠足にも行き、子どもと一緒に遊んだり、食事をしたりするなどの行事もあります。保育の現場にただいるだけでは決して分からないようなことをたくさん勉

強しています。

保育士とは、子どもと生活していく中で、自分も成長していける素晴らしい職業だと思います。私はいまだに自分の通っていた保育園と友達、また先生方のことを時々思い出します。保育園が本当に楽しかったという思い出は消えることがありません。私が保育士になった際には、子どもたちが大きくなって“あの先生でよかった”と言ってもらえるような先生になりたいと思います。

皆さんも日々の生活の中で情報収集を行い、趣味の幅を増やすなど、今の自分を磨いてください。

社会人になったとき、それが自分の支えになると思います。たくさんの方に挑戦し、自分の決めた職業に就けるように頑張ってください。



東京誠心調理師専門学校

調理師科2年制 2年
フランス料理専攻

田澤 彩

私は、普段から食べるのが好きで、自分で美味しい料理を作り、その料理で周りの人を喜ばせることが出来たら素晴らしいと思い、食の道に進むことを決めました。学校を選ぶ時に重視したのは、学校の先生の雰囲気、実習内容、自宅からの距離などでした。また最新の設備で学べることも決め手の大きな要因でした。

本校では、一年次に日本・西洋・中国料理の基礎技術や専門知識を学び、二年次にそれぞれの専攻別に分かれます。私はフランス料理を専攻し、一年次より更に深い技術と専門知識を学んでいます。また、マネジメントやフードコーディネーターに関する授業もあり様々なことを習得しています。

学校生活の中では、「講義で得た知識や情報を実践で生かし、更に技術を磨く」ということを常に心掛けています。実際に、レストランシミュレーションの授業では、理論を実技で応用したり、実

践での内容を改めて理論的に確認したり、技術だけではなく理論の大切さも実感することが出来ました。

後輩の皆さんも是非、理論や技術をしっかりと学び、自分の将来の夢の実現に頑張してほしいと思います。



平成20年度 新会員校の紹介

学校法人 食料学院 東京ホテルビジネス専門学校

〒171-0022 東京都豊島区南池袋 1-13-13
TEL 03-5911-4111 FAX 03-5911-4490
<http://www.hotel.ac.jp/>
JR「池袋」駅 メトロポリタン口より徒歩5分

社会に奉仕できる人材の育成

この教育方針を掲げ、昭和59年3月31日創立しました。姉妹校に東京栄養食糧専門学校（池尻大橋）・東京調理師専門学校（新宿）があります。「習うより慣れよ」を合言葉として、実習重視の学科・コース・カリキュラム編成が特徴です。

ホテル科：マネジメントコース

ホテルを再現した実践さながらの実習、サービスとは何かを理解したプロの接客技術を身につけた人材を育成します。

ホテル科：料飲サービスコース

一流ホテルやレストランの料飲部門は、最も重要な部門と言われています。「おもてなしの心」を身に付けた飲料のスペシャリストを養成します。

ホテル科：ブライダル&ビューティコース

ブライダルは人生で最も大切な時間の一つ。流

行の移りが激しい業界の変化に対応し、感動的でオリジナルなものにしたいと誰もが願います。そんな夢や憧れを「カタチ」にしていく勉強をします。

国際ホテル科：RICコース

国際派ホテルエを養成します。最大の特長は語学学習に大きなウエイトが置かれています。



学校法人 中央工学校 専門学校 中央工学校

〒114-8543 東京都北区王子本町一丁目26番17号
TEL (代表) 03-3906-1211
入試相談室フリーダイヤル 0120-79-1511
<http://www.chuoko.ac.jp> e-mail: info@chuoko.ac.jp

未来図—新たな伝統へ—

中央工学校は明治42年（1909）に工業分野の専門教育機関として設立し、2009年に創立100周年を迎えます。明治維新の開明政策によって欧米からもたらされた工業技術を我が国に定着させるべく工業技術・技能者の育成に励み、明治・大正・昭和・平成の4つの時代を一貫して技術者教育にあたってきました。これを通じて我が国を世界トップレベルの工業国に導くと共に、工業を志す若者を有資格者として世に送り出すことで、その人生に誇りと満足を与えてきたと自負しています。

今日、創設以来の学科である「建築・土木・機械」等を基礎に、これらを発展させた「木造建築」「都市環境」「工芸デザイン」「エンターテインメント」等の学科を開発・設置し、新たな人材ニーズにこたえています。また、本校の伝統である「人間性豊かな技術者」の育成にもいっそう励んでいます。

100年にわたって技術教育の振興を貫いてきた中央工学校は、これからの100年を誇りをもって豊かに生き抜く知恵と技術を育みます。



建築系	土木・測量・造園系	デザイン系	機械・CAD系
建築学科	都市環境学科	インテリアクリエイティブ学科	機械学科
建築工学科	土木建設科	インテリアデザイン科	メカニカルデザイン科
建築設計科	測量調査科	インテリア科	3D-CAD科
木造建築科	測量科	工芸デザイン科	CADエキスパート科
女子建築設計科	地理空間情報科	エンターテインメント設営科	
建築設備設計科	造園デザイン科		
建築室内設計科	土木科		
建築科	測量科		

情報システム科（2009年度新設置科）
専攻科 建設専攻科（建築・土木）

新 会 員 紹 介

- 都立武蔵高等学校附属中学校 校長 井田 良克 ○(株)エイエスケイ 代表取締役 赤嶺 功
〒180-0022 武蔵野市境 4-13-28 〒101-0051 千代田区神田神保町 3-6-18
TEL0422-51-4554 FAX0422-51-3966 TEL 03-3265-5011 FAX03-3265-1910
- 都立立川国際中等教育学校 校長 吉澤 郁生 ○個人会員
〒190-0012 立川市曙町 3-29-37 倉持俊義 渡邊征博 梶谷正義
TEL042-529-5335 FAX042-527-1829
- 浅地事務所 代表 浅地 正一
〒106-0032 港区六本木 6-12-2-3802
TEL03-3478-4561 FAX03-3479-4352

「第18回 全国産業教育フェア大阪大会」のお知らせ — 専門高校等の生徒による学習成果発表の祭典 —

- 期 日：平成20年11月2日(日)～3日(月・祝)
○会 場：アジア太平洋トレードセンター ATC ホール他
○開催内容：記念講演、作品展示、意見・体験発表、作品・研究発表、参加・交流イベント、ガーデニングコンテスト、フラワーアレンジメントコンテスト、クッキングコンテスト、全国高等学校ロボット競技大会、高校生ものづくりコンテスト全国大会・展示即売

「作文コンクール」参加募集中

作文の内容：各専門学科等における産業教育に関する学習を通して体験したこと、勤労に関わる体験的な学習によって学び得た人生観、職業観等、自己の将来に対する考え方や心構え等について述べたもの。

応募方法：400字詰め原稿用紙(A4版)を使用し、4～6枚、縦書き。パソコン入力可。

応募期限：平成20年9月19日(金) ※詳細については、「募集要項」をご覧ください。

「平成20年度 わくわく どきどき夏休み工作スタジオ」のご案内

小・中学生にもものづくりの面白さや達成感を体験してもらい、将来のものづくり産業を支える人材を早期から目指してもらおうことをねらいとして今年も実施されます。

○対 象：小学生低学年、小学生高学年、中学生

○主 催：教育庁指導部高等学校教育指導課

	会 場 校	問い合わせ	開 催 日	参加費用
1	都立葛西工業高校	03-3653-4111	8/23、24	1000円 2000円 2500円
2	都立足立工業高校	03-3899-1196	8/4、5、11、12	〃
3	都立工芸高校	03-3814-8755	7/25、31 8/1、7、8、13、14、21、22、26、27、28、29	〃
4	都立北豊島工業高校	03-3963-4331	7/30、8/4、5、16、17、24	〃
5	都立小金井工業高校	042-381-4141	7/26、27	〃
6	都立総合工科高校	03-3483-0204	8/19、20、21	〃

※ 詳しい内容については、各高校もしくは教育庁指導部高等学校教育指導課(TEL03-5320-6845)にお問い合わせください。

東京都産業教育振興会 ホームページアドレス <http://www.tosanshin.org/>

事務局より

○ 本会は、東京都の産業教育をさらに飛躍させるために活動するとともに、情報等をお知らせしています。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

○ 本号からシリーズで「専修学校に学んで」と題して、専修学校在校生からのメッセージを紹介いたします。

発行 東京都産業教育振興会
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1
東京都教育庁都立学校教育課
高等学校教育課内
電話 03-5320-6729
Fax 03-5388-1727
印刷 有明印刷株式会社

 古紙配合率100%再生紙を使用しています